

忘れてならぬ誘導的效果

目白幼稚園 和田 實

幼児をして十分に幼児たらしめよ、と云ふこと即ち、幼児をして、二度と繰り返すことの出来ぬ幼児時代を十分に幼児らしく過させると云ふことは、現在、誰も異論のないところで、是が爲めに、幼児の自由、幼児の行樂、遊戯、玩具の豊富等、凡ゆる方面に幼児を優遇する旨趣が實行されて居ることは、誠に悦ばしいことに相違ない。が併し、物は過ぎれば弊を伴ふ。餘りに幼児を優遇する結果は、幼児をして、放恣、惰慢の習慣を馴致する様になつたり、或は、單に享樂を以て終らしむると云ふ様なことになり易い。

お話は幼児の好むものであるからと云ふので、繪本や幼年雜誌の類、皆、夫々、幾つかの童話や、小説めいたものを載せて居る。其内容を讀んで見ると幼児に知らせたくないもの、耳に入れたくないものを、材料として居ることが、随分多い。嘗て、小波氏が「童話は心の食事としてはお菓子に相當するものだ。三度の飯程滋養々々と云ふ譯には行かぬ。害がなければ食欲を満足させるだけでも差支はなからう。と云はれたことを記憶する。一面の理屈はある様だ。子供の一生は永い。聞く可きお話は随分澤山あらう。たまには滋養がなくても、「あゝ、お美味かつた」と云ふだけでも、爾後の食欲をそゝる効果はあらう。

併し、最れは教育の限界外のことである。教育の論議を離れての事である。吾等も人間である以上、時には、教育の限界を離れて生活することもあらう。其時には或は斯様な事もあらうか、けれども、苟も、教育論としては是は許されぬことだと思ふ。食事は身體を養ふ爲めに採る可きもので、決して、享樂の爲めのものではない。採る可き必要なくして採らしむることは攝度の良習慣を涵養す可き機會を逸するものである。今日は明日を誘導する。現在が未來を導き來すことを思つたら、微細も謹まねばならぬ。兎角、誘導の効果を忘れて材料の選擇を慎重にしないと云ふことは、陷り易い現在の弊風ではあるまいか。

童謡、舞踊は幼兒の天性から遊り出る快樂の泉である。近頃、舞謡や舞踊の盛んなことは何うであらう。今年の暑中休暇を充て込んで、所々に開催される講習會の種類だけでも、中々盛んなことである。文務省主催の講習だけにしても、數百人の保姆諸君が熱心に講習される。爾餘の講習を合したい、小千人の保姆諸君は何れも皆新しい童謡、舞踊を講習されることであらう。其新しい童謡や舞踊が、果して皆、教育の目的に適ふものであらうか如何、是が頗る疑問である。中には小波氏の所謂、間食に匹敵するものはあるまいか、或はまた一時の興味は相當にあるとしても、其誘導的效果は却つて教育的でないものと云ふ種類のものはあるまいか、頗る疑はしい次第である。吾等の見る所では却つて教育上、面白からぬものであると感ずるものがある様に思ふ。夫々専門の教育家が工夫されるのであるから、吾等の心配は杞憂に過ぎぬかも知れぬが……。

童話にしても、童謡にしても、又舞踊にしても、幼児の遊戯生活の一端であることに相違はない。従つて、其實社會的價値と云ふものは、殆んど、零である。然も尙幼児教育上に是等のものが重要視せらるゝものは其誘導的効果を評價するからである。幼児教育の次に來る可き普通教育へ誘導する効果を考へるからである。此考へなくして幼児の遊戯的生活は極めて價値少きものとなるのは止むを得ない。然るに保育者の多くには、何うも此處迄、氣附いて居る人が少い様である。童話を使うと云へば矢鱈に採用する。何等撰擇的條件も立てなければ分量の過不足も老へないと云ふ風である。新しく出來た童謡や舞踊は出るに従つて採用する。古きものゝ熟さぬに早や新しきを教へると云ふ風である。斯くては、徒に幼兒をして應接に忙殺せしむるばかりで、技術の熟練や進歩は望まれないばかりでなく、其誘導的効果を充分享受せしむることも出來ない。然のみならず、餘りに多くの材料に接觸する結果は輕跳浮薄の氣風を馴致することにならぬとも限らぬ。畢竟是等も保育材料の誘導的効果を充分考慮して掛らぬ爲めであると思ふ。

自由に存分に遊戯させると云ふ意味で、子供の「ふざける」ことや「道化する」ことを野放圖に許すばかりでなく、保育者が先達になつて、ふざけたり道化たりすることは所々の家庭で、能く見る所である。是も、或目論見の許に行はるゝならば宜しいが、無考へに行はるゝことは寒心す可きである。是と同様なことが、繪本の中に能く見られる。此間も或る繪本、然も數多の幼稚園の先生方を顧問や賛助員にして居る繪本の中に夏の題材として、極めて價値多き海邊の博物的行樂の模様を描くに道化した風彩を加へて

居つた題材が興味の少いものを取扱ふとでも云ふならば、時には少しく恕す可きではあるが、題材が既に非常に子供に興味があるもので、然も、眞面目に子供の自然科学的興味をそゝらねばならぬものを扱ひながら、要らざる道化た、悪ふざけの様子を交へて居る。是等は實に考へのない編輯の仕方だと思ふ。凡ての遊戯材料が何處に子供を誘導するだらうかと考へたら、逆も斯様なことは出来ぬ筈である。

又繪本に童謡其他の文句を附加することは、極めて、教育的措置と云つて然る可きではあるが、其童謡なり、文句なりには相當に教育的價值あるものを欲しい、少くも、繪の價值を一層大ならしむるだけの効果がなくてはならぬ。尙一步進んでは繪畫の意味を一層深重凱切ならしむる底のものが欲しい。誦して詩味を感じ、美感をそゝる様な字句を欲しい。平たく云へば、子供が一再ならず反復多かんことを好む様な文句が入れて欲しい。然るに、編輯者の注意が此處迄届いて居ないのが頗る多い。慨歎に堪えぬと云ひたくなる。況して、國定教科書の語法文法にも従はず、古來の慣用にも従はず、妙な假名遣を態として居るのなどは實に言語同斷と云はねばならぬ。

恩物や手技を課するにしても然うである。(課するなど云ふことは語弊があるかも知れぬが) 恩物は夫れ自身、夫々の目的を持って居るが、其誘導的效果は手技の前提としての夫れでなければならぬ。恩物の使用は手技の發達に結果づけるのが、其使命の一である。而して、手技は、また、後來の學習的手工圖畫、並に作業としての手工、圖畫に誘導するのが其任務である。是等誘導的效果を目論見の中に入れてずして幼兒の遊びを考へることは、徒に、人の子を害ふことになると思はねばならぬ。